

各位

小木曾 順務

ご案内（化学繊維会社との会議）

海事系廃プラの廃棄物の海洋投棄をなくすには、日本化学繊維協会会員が生産するバージン同等の強度を持つリサイクル糸を JISL2707-1992 ポリエステルロープ「再生材料は使用してはならない」に照らし法改正を検討することが重要である。法改正後、製網・ロープ製造組合員にリサイクル糸を供給し、組合が「エコマーク商品」を創り、日本消火器組合と同様に広域認定を活用する仕組み作りが重要と考える。（小木曾）

以下が、化学繊維の某メーカーを訪ね、海事業界向けの再生ロープづくりの可能性調査をした概要である。

1. 船舶で使われるホーサーは焼却処分。リサイクルシステムが無いため、過去には海洋投棄もあった。  
脱炭素社会には、国交省が整備したリサイクルポート（22 港）に海事業界のホーサーを全量回収し、工業化したケミカル・マテリアルリサイクルする仕組みが必要である。（小木曾）
2. ホーサーは、ナイロン、ポリエステル、オレフィン系などの様々な素材が使われており、藻や海の付着物も含めリサイクルするにはそれらを分離できる技術が必要である。（メーカー）
3. ホーサーをケミカルリサイクル技術で、様々な成分が混じった分解油に油化するのが一番現実的だと思うが、分離設備、回収方法、安定した供給量の確保など様々な問題があり、リサイクルのコストも相当高くなると推測する。（メーカー） 回収費の助成制度が必要である。（小木曾）
4. 繊維の場合は、再生原料の品質要求が高くきれいな PET ボトルでないと製造が出来ない。所謂、ホーサーからホーサーの水平リサイクルは無理である。再生原料でホーサーを商品化するには、繊維よりシートや成形プラなどの廃素材が向いている。（メーカー）
5. メーカー手持ちのリサイクル原料から、バージン同等の強度を持つリサイクル糸を製造するのは可能である。（メーカー）
6. リサイクル糸でホーサーを製造しエコマーク化、そのホーサーを回収し油化するのが最善策と考える。  
油化した分解油は、出光興産など石油精製会社に処理委託（売却が最善策）する。（小木曾）
7. 工業化したリサイクルのネットワーク作りということであれば、化繊協会などの業界団体を窓口に進めた方がよいのではないかと。（メーカー）

以上